



湾岸・アラビア半島地域ニュース

カタール：アル・アティーヤ副首相兼エネルギー・工業相発言（6月25-30日付現地各紙）

24日、アル・アティーヤ副首相兼エネルギー・工業相は、ラス・ラファン工業都市でのGE石油・ガス・サービスセンター開設式典の機会に、記者団に対して今後の原油生産能力拡大、欧米での精製施設不足等につき発言している。また29日には、第19回世界石油会議(WPC)に出席するため訪れているマドリードで記者団に対して、米下院のOPEC訴追法案通過、リビアの減産可能性について発言している。概要以下の通り。

1. カタールは、2010年までに、原油生産能力を日量20万バレル拡大し、日量110万バレルまで引き上げることを目標としている。現在の生産量は日量90万バレルである。
2. 投機及び地政学が油価高騰の主な原因。OPECは、油価をコントロールできない。米議会は、自国内の油田探査拡大を検討すべき。我々がどれだけ生産すべきと要求するのはおかしい。これは主権に関わる問題である。仮にそのような法が成立すれば、多くの産油諸国は、米国への原油売却を回避するであろう。
3. (26日のリビアの国営石油総裁による減産の可能性に言及した発言に対し)市場に原油余剰があるとしても、今減産を行うのは賢明ではない。減産には全く賛成できない。我々は、心理的問題の加熱を抑える手助けをしたい。